



○ ゴボウシ(牛蒡子)

語源

ゴボウ属の *Arctium* は、ギリシャ語でアルクトス「熊」から。由来に関しては ①果実に先端が鉤状になったトゲが多く、クマの毛皮のように見えるため、②根に細毛が多く、クマの毛皮のように見えるため、という説がある。

種小名 *lappa* ラッパは、ラテン語で「ゴボウ」を意味し、この「(ゴボウのような)イガのある」という意味で、モッコウ *Saussurea lappa* の種小名にも使われている。

牛蒡の「蒡」は「丸い葉が両側に広がる菜」のことといわれている。別名の一つ「悪実(アクジツ)」は、トゲの多い果実の様子が「格好の悪い実」とみなされたため。他の別名「ウマフブキ・ウマフブキ(馬蔴、旨蔴)」は、葉が同じキク科のフキに似ていて、馬が好んで食べることにちなんでいる。

基原

Arctium lappa Linne ゴボウ

キク科 多年生草本

日本にゴボウの野生種はないが、千数百年前に中国から渡来し、日本で改良されて作物化した。

薬用部分

果実

産地

中国(吉林、遼寧、黒竜江、浙江)、韓国、日本

主な成分

リグナン：ネオアルクチン、アルクチン、アルクチゲニン、ラッパオール他
ステロール：ダウコステロール
その他：イヌリン、パルミチン酸



主な薬効

解毒、消炎、排膿

代表的処方

漢方では疏散風熱・去痰・止咳・皮膚化膿症などに用いる。

【消風散】

ショウフウサン

体力中等度以上の人皮膚疾患で、かゆみが強くて分泌物が多く、ときに局所の熱感があるものの次の諸症：

湿疹・皮膚炎、じんましん、水虫、あせも

(処方内容) 当帰／知母／地黄／胡麻／石膏／蝉退／防風／苦参／蒼朮(白朮)／荊芥／木通／甘草／牛蒡子

【柴胡清肝湯】

サイコセイカントウ

体力中等度で、疔の強い傾向(神経過敏)にあるものの次の諸症：神経症、慢性扁桃炎、湿疹・皮膚炎、虚弱児の体質改善

(処方内容) 柴胡／当帰／芍薬／川芎／地黄／黄連／黄芩／黄柏／山梔子／連翹／桔梗／牛蒡子／栝楼根／薄荷葉／甘草

【驅風解毒散(湯)】

クフウゲドクサン、クフウゲドクトウ

体力に関わらず使用でき、のどがはれて痛むものの次の諸症：扁桃炎、扁桃周囲炎

(処方内容) 防風／牛蒡子／連翹／荊芥／羌活／甘草／桔梗／石膏

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「日本薬草全書」「和漢薬の事典」「漢方のくすりの事典」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562

URL：www.fukudaryu.co.jp

Power of Kanpou